

桜 (1946)

メディア 映画 アニメ

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

初公開日 1946

【解説】

戦後の1945年11月、政岡憲三と山本早苗が創設した新会社・日本漫画映画社の第一号作品。

ドイツのロマン派音楽家ウェーバーのクラシック「舞踏への勧誘」をバックにした作品で、特に劇的なストーリーなどはない。桜の舞い散る春の日、擬人化された蝶々の姉弟が外を飛び回り、ポックリ下駄を履いた舞子さんや子犬たちと行き交い、そして川を下る舟を眺めるというもの。一説には、政岡がディズニー作品『ファンタジア』に刺激されて企画したともいわれる。純日本画風の世界が叙情的によって描き出され、観た者に鮮やかな印象を刻む。なお擬人化された蝶の姉弟の顔は、当時の少女雑誌で人気だった挿し絵画家の辰巳まさえが担当。他にも童画家の黒崎義介、絵本画家の安井小弥太など各界の画家たちが作画に参加している。娯楽性を撤廃して芸術性を訴求したアニメの嚆矢であり、それ故に完成後オクラ入りしていたが、いつしか『春の幻想』の題名で海賊版が世間に流出。人目に触れるようになった。

【クレジット】

演出 政岡憲三

製作 山本早苗